様式3

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

学校番号 ②

福岡県立築上西高等学校

自己評価

学校運営計画（４月）

学校運営方針	「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の三柱をもとに教育活動を行い、地域を愛し、地域から愛され、地域に貢献できる人材を育成する学校。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	**年度重点目標**	**具体的目標**	
昨年度は「～Change～変えよう西高」をスローガンに、生徒の実態に応じた指導の工夫・改善や地域連携活動を通じた活性化を実施し学校改革に向けて意識の高揚が図られた。今年度は、生徒・保護者及び地域等から信頼され魅力と活力溢れる学校づくりを行うため、授業の充実及び地域連携の体験型探究活動等を通して、生徒の自尊感情を高める取組を工夫し、教職員が団結し、より実効性のある教育活動を実施する。	基礎学力の充実	「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす」分かる授業、ICTの活用とAL型授業の推進、地域と連携した課題探究による課題発見・解決能力の育成。	
	積極的生徒指導の徹底	基本的生活習慣の確立、面談週間や学校生活アンケート等の活用による生徒理解、生徒会活動・部活動の活性化。	
	希望進路の実現	３年間を見通した進路指導計画「築西プラン」の実行、学びなおし等を利用し個別最適化された指導の工夫。	
	図書教育の充実	図書委員会活動の活性化による図書館の積極的な活用に努め、朝の10分間読書や月末朝朗読の充実を図り、読書に親しむ態度の育成。	
	人権・同和教育の推進	知的理解にとどまることなく、人権感覚を育む特設授業の充実と自尊感情の向上、「いのち」の大切さ・他者尊重の精神を育む。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
学習指導	希望進路を実現できる基礎学力の充実。	課題を計画的に実施して家庭学習の習慣化を図るとともに、授業において小テストを実施し、「できる」喜びを実感させることで自尊感情を高める。				
		成績不振者や気になる生徒について情報交換を密に行い、補習や特別保護者会などを通じて手厚い指導を行う。				
	効果的な学習指導の研究と実践。	AL型授業の推進に取り組み、生徒が共に学ぶ基盤を築くとともに、授業評価アンケート及び授業改善シートを実施し、教職員の意識向上と授業改善の推進を図る。				
		ICT機器を活用し、学習への意欲を高めるとともに、授業規律の確立を図り、授業を大切にする心を育成し、基礎学力の向上へとつなげる。また、地域と連携した課題研究に取り組み課題解決能力の育成を図る。				
生徒指導	◎毅然とした粘り強い指導。 1　当たり前の事をやりきらせる生徒指導。	ア：挨拶の励行(教員から積極的に挨拶)　教務部と連携して各授業の初めと終わりの挨拶をしっかり行う習慣を身に付けさせる。 イ：時間厳守(遅刻回数による段階的な指導)　放課後指導、保護者と連携、保護者召喚 ウ：身だしなみ指導(日頃から生徒への声かけ、生徒指導ハンドブックの活用) エ：掃除の徹底(掃除の時間は掃除をする、掃除指導・監督の徹底)				
	2　生徒の主体性、自主性の育成。	ア：生徒会担当教員と生徒会役員が連携し、早めに企画・立案を行う。 イ：生徒会各種委員会が積極的に全校生徒やクラスの生徒の前に出て、各委員会の徹底事項を呼びかけていく。				
	3　部活動の活性化。	ア：部活動体験入部を実施し、新入生の入部を奨励する。1年生の加入率70%を目標。全体加入率60%を目標。 イ：部活動生集会(年間5回)を実施し、学校を牽引する意識付けをしていく。				
進路指導	第一希望進路の実現のため、放課後課外を充実させる。進学、公務員、就職に対応できる指導を行う。	チャレンジ課外を実施し、英語、数学、国語の学力向上に努める。また、公務員講座を実施する。				
		自習室を設置し、自学の習慣を身に付けさせる。				
	進路ガイダンスや進路学習を実施し、進路に興味を持たせ、自分の進路を考えさせる。	進路ガイダンス、オープンキャンパス等への参加の奨励を行う。				
		進路情報を生徒に広く提供する。				
研　修	授業研究の推進・充実。	2学期に研究授業週間を設ける。授業を実施する教員や参観する教員の負担が過剰にならないように、実施方法の見直しや改善を行う。				
	職員研修の推進・充実。	生徒の実態に合った指導が行えるよう、各分掌と連携を取りながら研修を企画する。				
学年	1年：「自己指導能力の育成」と「5Sの徹底」を柱とした、基礎・基本の定着。	学校生活の様々な部分で、自己の状況を判断し、適切な行動を積極的に表出したり、あるいは状況に合わせて行動を抑制したりする自己指導能力を育成する。また、5S（整理・整頓・清潔・清掃・躾）の徹底を行い、環境整備のみならず、仲間と協力することや自己の役割を果たすことなど、豊かな人間性の育成を養う。				
	2年：進路実現を早くから目標に見据え、大人として行動できるような生徒を育成する。	自分の進路実現のために、個人個人が進路に向き合えるように適切に指導を行う。進路実現に出席皆勤が有利であることを理解させる。学校行事等では、コミュニケーション能力を育成しするとともに、中核として活躍し自己有用感や自尊感情を育む。				
	3年：進路実現に向けた取り組みを充実させ、社会に出た後に通用する人間性の育成を図る。	自己の能力や適性に応じた進路を主体的に決定できるように適切な助言や指導を行う。各自の進路選択に応じた面接や小論文・学科の指導を丁寧に行い、自信を持って進路決定の場に臨めるようにさせる。体育大会等の行事を通して、自己有用感を感じさせるとともに、他者尊重の心を育む。				
図書教育	読書に親しむ態度の育成。	全職員、全生徒参加のもと実施し、朝朗読を通して文章に親しむ機会を設ける。				
	委員会活動の充実。	図書委員会を開き、各自の役割を認識させ責任をもって行わせる。				
保健指導	生徒の心とからだの健康状態の把握をする。	朝礼時の検温を実施し、積極的に声掛けをすることで生徒状況を把握する。また必要性がうかがえる生徒には定期的に実施されるカウンセリングの活用をも促す。				
	生徒に健康観を意識させ、調和のとれた人間性の育成をする。	授業において実態に応じた保健学習を実施し、また外部講師を招いての講演会を開催することで生徒の健康管理意識の向上を促す。				
人権・同和教育	生徒の自尊感情を高める取組および相互に尊重し合う人間関係づくりの推進。	担任および関係職員・関係部署と連携し、課題を抱えた生徒を支援するとともに、各教科や特別活動等教育活動全体を通して人権学習に取り組む。				
	職員の人権に関する知的理解を進め、人権感覚を高める。	職員研修の一環として、地区同研をはじめ、人権にかかわる団体主催の研修会を活用する。研修部と連携し、職員のニーズに合った学校独自の職員研修を開催する。				
情報化推進	職員のICT活用能力や情報セキュリティに対する意識を高める。	職員研修として外部講師を招いての講習会や、職員同士の研修会などを設ける。				
教育環境	生徒の安心・安全な学校生活を支えるため施設・設備の維持管理に努める。	校舎改修工事の円滑な実施のため校内及び業者との調整を図る。				
		老朽化した既設校舎を安全に使用できるよう定期的に点検を実施し、修理・修繕が必要な場合は、早急に対応する。				
開かれた学校づくり	「総合的な探究の時間」を活用して、地域と連携した特色ある授業を実施する。	地域の方や大学教授による講演会、地域施設へのフィールドワーク、インターンシップ、大学訪問などを実施する。				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A　適切である B　概ね適切である C　やや不適切である D　不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見